

書香

1982. 10. 1

NO. 2

図書館電算化はバラ色ではない。

富山大学附属図書館長

若林 嘉一郎

本稿を読む前に次ページを開いて頂くと、読者は「わが計算機センターが間もなく情報処理センターに脱皮し、図書館を含むさまざまな部局の情報処理を行う。」ことを知る。

これは「わが図書館が学術情報センターシステム（昭和59年開設予定）への参加のサポートを入手した。」ことを意味する。

図書館が情報処理センターと結ぶ適正端末機さえ保有すれば、ユーザーが文部省の狙い通りの良質サービスを楽しむことの保証があるならば、このあたりで「めでたし、めでたし」と本稿を結べばよいのだが……。事態はそれ程甘くはない。

1950年以降の新プロジェクトの主流は計算機を用いた複合技術のシステム化であった。そして、われわれは「計算機の関与するプロジェクトはそれぞれ有益ではあるが、宿命的に多少のデメリットを随伴する。」ことを体験した。かくして、新プロジェクトの採用以前におけるテクノロジーアセスメントの洗礼が現代社会の常識となった。

わが図書館の電算化においても、事前アセスメントは不可欠である。昨年、二神前館長のもとに創設された図書館電算化委員会は「電算化により、計算機嫌いのユーザーに不便を与えてはいけない。」という事前アセス

メントの思想から「電算化後においてもカード目録は廃止しない。」との方針をきめた。

同じ思想を出発点として、今後は上記以外のデメリット防止策の発見にもつとめるが、その過程においてはユーザー各位からの御提案を基盤としたい。

見落としのない事前アセスメントは相当困難な作業であるが、それさえ実施すれば図書館電算化がユーザーサービスの向上に直結するかといえば、絶対にそうではない。

わが図書館には非常勤を含め28名の職員がいるが、その数は昭和39年以来増加していない。しかるに、その間にわが館の蔵書数は約2.5倍となった。1人当たり作業量のこのような増加に喘（あえ）いでいる図書館職員に、電算化によるユーザーサービスの向上（学術情報センターシステムへの参加）という新しい仕事を課すのは無理な相談といえる。

この悲観的な事態の打開策には、情報処理センター機によるOA（オフィスオートメーション：業務の省力化）しかない。すなわち図書館電算化の成功、不成功はOAシステム設計の巧拙にかかっていると断言できる。

（注）図書館と学術情報センターシステムとの結合部設計は計算機メーカーに一任できるが、OAシステム設計はそれでは不完全。

学術情報センターシステムへの参加をめぐって

若林 嘉一郎

昭和59年後期からの稼働を目標として、文部省は学術情報センターの整備を進めている。ここに、同センターの最重要業務は「学術情報データベース・サービス」であり、その運営構造はつぎのように要約できる。

(1) 約50種の2次情報(Cheical Abstractのようなオリジナルペーパーの加工物および各種物性値,統計データ,図形情報など)データベースの管理

(2) 全国の国公立大学図書館(約900館)が所蔵する1次資料目録の管理

この2構造の適正ハイブリッドにより、ユーザー(各大学の教職員と学生)は情報検索(求める情報を掲載した書誌を探し当てること)から目的情報(1次資料のコピーなど)の入手に至る一貫した情報流通について、良質サービスを受けることができる。

ここに、2次情報データベースは学術情報中枢センターの計算機に格納されるが、この計算機の記憶容量(2390億バイト)のうちの大部分(2080億バイト)が2次情報の格納に当てられ、1次資料用はわずかである。処が、2次情報の引き出し件数は1次資料のその1/30以下(約1000件/日)と見込まれる。

中枢センター機と各大学図書館の計算機(これを端末機という)を直接結合させると通信回線の使用料がかさむ。そこで、中枢センター機と端末機の間地域センター機が設置される。ここに、地域センター機には当該地域の大学図書館の1次資料が格納される。これに対し、端末機はきわめて小型であるため自館の1次情報する収容し切れない。

ちなみに、中枢センター機の価格は1億円/月レンタル、地域センター機のそれは300万円/月レンタル、端末機のそれは45万円/月レンタルといわれている。

話題をもとに戻す。

学術情報センターシステムが完成すると、他大学図書館の蔵書の利用が現在よりもはるかに容易になる。ただし、端末館においては

自館蔵書に関する所在情報の入手にも、一々地域センターの援助を受けることになる。すなわち、自館蔵書の利用にも通信回線使用料を支払うのである。

一般には、端末館・地域センター間の距離が短い通信回線使用料は低廉(ていれん)である。しかし、わが北陸地方のような地域センター候補の存在しない地区では、そうはゆかない。仮りに、富山大学が中枢センターと直結するとすれば、1冊の自館蔵書(1冊当りの情報量を500バイトと仮定)の所在検索に約10円が必要となる。^{*}多くの場合、1冊の図書館の借入を決心するまでには5~10冊の図書館情報が必要であるから、1冊の自館蔵書借入の費用は50~100円と見込まれる。

これでは、地域センターが存在しない地区の図書館に端末機を設置しても効果が薄い。そのため、文部省はこのような図書館の電算化は遅らせる方針であった。

筆者は図書館長就任以来、文部省担当官に頻繁に接触し、わが館電算化の早期実現を陳情して来た。しかし、北陸に地域センター設置の見込みがないため色よい返事は貰えず、単にわが館がすぐれた電算化構造設計の能力を持つと認めて頂いた程度であった。

その矢先き、富山大学の情報処理センター設置要求が省議を通過した。これは本学計算機センター長や関係事務官の御努力と文部省担当官の御支援の賜物である。

ここに、情報処理センターとは研究、教育以外に図書館業務などの処理を目的とする大型計算機システム(650万円/月レンタル)を指す。このシステムでは自館蔵書目録のほか数件の図書館必要情報を格納できるため、わが館のような地域センターのない地区の図書館であっても、機能的に電算化できる。

かくして、わが館は最適電算化システムの設計に向かって直進することとなった。

^{*}10円/冊は電話回線使用時の料金であり、専用回線使用のときは60万円/月となる。

全国国立大学大型コレクション案内

(昭和53年度～昭和56年度)

参 考 係

このコレクションは、各国立大学が文部省に申請して購入したものである。

これらの図書は、学内外研究者の共同利用に供する条件になっている。

なお、図書の内容、閲覧を希望される場合は、参考係へお尋ね下さるようお願いいたします。

昭和53年度

- | 大学名 | 資料名 |
|-------|---|
| 北海道 | ○ボリス・スヴァーリン・コレクション
○18世紀ロシア研究叢書
○英・独・仏語によるソ連・東欧研究コレクション |
| 小樽商科 | ○フランス革命期刊行文書および研究書コレクション |
| 弘前 | ○経済学古典コレクション |
| 東北 | 北○ハンサード英国議会討論報告
○米国政府刊行物・議会議事録 |
| 福島 | ○19～20世紀ロシア・ソビエト研究 |
| 筑波 | ○心理学・精神病学書コレクション |
| 千葉 | ○ドイツ議会議事録ならびに議会資料 |
| 東京 | 京○マザラン誌コレクション
○アラブ文化・アラブ学研究コレクション
○オーストラリア総合法令集・判例集体系(連邦・各州)
○インドネシア関係文献マイクロフイシュ |
| 東京外国語 | ○アラビア現代史料
○ブラジル・コレクション |
| 東京学芸 | ○ドイツ教育学集書 |
| 東京芸術 | ○音楽学学位論文集 |
| 東京商船 | ○「キャラバンマリタイムブックス」コレクション |
| 東京水産 | ○チャレンジャー号探検記 |
| 一橋 | ○フランス経済学コレクション |
| 金沢 | ○フランス法律判例コレクション |
| 名古屋 | ○フランス、官報及び議事録
○ハンサード英国両院本会議録
○インド立法関係資料集 |
| 愛知教育 | ○コロンビア大学教育学叢書 |
| 京都 | 都○アイルランド大学出版局英国議会資料シリーズ
○フランス国民議会議事録
○ドイツ帝国議会議事録
○台湾国立中央図書館善本漢籍 |

- | | |
|--------|------------------------------------|
| | ○イタリア史誌 |
| 大阪 | ○アメリカ政府所蔵日本国政文書(外務省、内務省、法務省) |
| 大阪外国語 | ○中国方志叢書 |
| 神戸 | ○ロシア・ソ連で出版された日本関係文献
○合衆国議会公聴会記録 |
| 岡山 | ○ドイツ帝国統計書 |
| 広島 | ○ハンサード英国議会討論報告
○戦争と平和に関する文献目録 |
| 香川 | ○ニューヨーク証券取引所上場会社年次営業報告書 |
| 福岡教育 | ○英国教育史研究資料 |
| 九州 | ○故シャルル・ペラ教授旧蔵書
○ドイツ連邦議会「戦後分」議事録 |
| 九州芸術工科 | ○ロイド・モーガン教授建築学関係コレクション |
| 熊本 | ○英国議会議事録1801—1899年 |

昭和54年度

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| 北海道 | ○ドイツ法制史・実定法関連コレクション |
| 弘前 | ○初期英語文献協会出版物 |
| 東北 | 北○米国判例体系 ○英国古書集成 |
| 山形 | ○上杉文書 |
| 筑波 | ○マックス・ベッソン・ジャポニカコレクション |
| 埼玉 | 玉○現代政治学基本文献集 |
| 千葉 | 葉○イギリス知体験 |
| 東京 | 京○英国政府刊行物 ○民国時代公文書資料
○舌耕文芸関係資料 |
| 東京学芸 | ○芸教育学文献集成 |
| お茶の水女子 | ○女性の歴史 |
| 横浜国立 | ○中国方志叢書 |
| 新潟 | 潟○欧州各国公式経済統計資料 |
| 富山 | ○承政院日記 |
| 静岡 | 岡○国際連盟関係コレクション |
| 名古屋 | 屋○ホップスを中心とするイギリス思想史原典コレクション |
| 京都 | 都○台湾中国国立中央図書館善本漢籍
○フランス国民議会議事録 |
| 京都教育 | ○教育情報センター文献資料 |
| 大阪外国語 | ○北欧歴史と民間伝承コレクション |
| 神戸 | ○ロシア・ソ連で出版された日本関係文献 |
| 神戸商船 | ○近世の廻漕史料(東北編) |
| 奈良教育 | ○アメリカ主要大学教員養成関係学位論文集 |

鳥取○四部分類叢書
 岡山○ドイツ歴史史料集成
 広島○米国国勢調査報告書
 山口○四庫全書珍本
 愛媛○大日本古文書正倉院編年文書
 九州○米国判例体系 ○石崎文庫蔵本
 ○欧州各国公式経済統計資料
 長崎○巨大企業・経済集中関係資料
 熊本○旧幕府引継書
 鹿児島○シボガ学術探検報告

昭和55年度

北海道○初期英国文芸誌コレクション
 ○英国外務省外交記録, ロシア・ソ連関係文書

北海道教育○英国議会教育関係議事録
 東北○アメリカ各州判例集
 秋田○児童発達, 精神病学及び心理学古典コレクション

図書館情報○NTIS, 図書館学, 情報科学研究レポート1971~1976

千葉○ゲルマン史料集成一史家, 法律, 国王文書等

東京○英国政府刊行物コレクション
 東京医科歯科○ルーヴィエール文庫
 東京外国語○モンゴル大蔵經
 東京学芸○フランス教育学集書
 東京商船○米国海事関係裁判判例集(1923~1955年)
 横浜国立○世界各国地図帳集成(歴史地図帳, 経済地図帳, 地域別地図帳, オリテリウスの世界舞台等)

金沢○州主題別法令集(アメリカ主要各州の法令集)

名古屋○ホップスを中心とするイギリス思想史原典コレクション第二期

愛知教育○トイプナー古典叢書
 滋賀○アメリカ産業会議刊行物
 京都○ペルシャ語文献資料集成
 大阪○欧州各国公式経済統計資料(1841~1970年)
 大阪外国語○イタリア著述家全集
 神戸○主要米国会社年次報告書
 奈良教育○ドイツ・スポーツ教育学コレクション
 奈良女子○都市問題博士論文集
 島根○ドイツ最高裁判所全判例集セット
 岡山○グローズ・シレー判例集
 広島○ドイツ大学史コレクション
 山口○米国議会経済合同委員会報告書(第二次世界大戦から現在)

九州○註釈付米国各州法令集
 熊本○シンテーズ文庫

昭和56年度

北海道○基礎法学並びに一般史関連コレクション
 東北○19世紀英国議会報告
 茨城○英国政府刊行統計資料集成
 図書館情報○ロシア, ソ連書誌・図書館学資料集成
 筑波○パウハウス双書と展覧会目録コレクション

宇都宮○世界農林業センサス
 群馬○柳営日記
 埼玉○経済統計基本文献集
 千葉○米国経済基本統計資料集
 東京○英国政府刊行物コレクション
 ○米国連邦議会資料集
 東京学芸○ロシア, ソビエト教育研究雑誌コレクション

東京芸術○交響曲
 新写○科学史関係文献コレクション
 長岡技術科学○工学・技術政策関係文献

福井○ハクリュート協会議書
 山梨○障害者の社会参加映画
 信州○アメリカ合衆国経済関係官庁及び行政委員会資料

岐阜○静嘉堂文庫
 名古屋○18・19世紀ヨーロッパ総合雑誌集成
 愛知教育○保健体育, レクリエーション研究文献集成

三重○明治, 大正, 昭和期土地経済及び経済統計資料

京都○ワイマール共和国コレクション
 京都工芸繊維○ポスター

大阪○法学及び国際法関係図書コレクション
 大阪教育○知性(旧名・学校と社会)
 兵庫教育○全米カリキュラム資料集
 神戸○国連公式記録集
 和歌山○心身障害者の社会参加と平等に関するコレクション

鳥取○コロンビア大学教育学叢書
 広島○教育資源情報センタードキュメント
 香川○アメリカ合衆国連邦裁判所判例集
 高知○中国社会思想史コレクション
 九州○英国議会議事録
 佐賀○東寺百合文書
 大分○中世教会史叢書

『承政院日記』に就いて

人文学部助教授 藤本幸夫

『承政院日記』は、李王朝（1392～1910）時代、国王の秘書室とでも言うべき役割を果たした承政院において、日毎に生じた事件や取扱った文書を記録した日記で、一ヶ月分を一冊とし、翌月に整理、作製するのが原則であった。承政院は李朝初期よりその機能はあったが、その名称で独立したのは1400年であり、以後1894年迄続き、その後は官制の変改により『承宣院日記』『宮内府日記』『秘書監日記』其他呼称は変わったが、1910年日韓合併時迄その機能を持ち続けた。建国以来1592年以前のものは、豊臣秀吉の朝鮮侵略時に焼失し、それ以降1622年迄のものは李适の乱で湮滅する等、結局現在するのは仁祖元年（1623）以降李朝末迄の288年間3245冊で、ソウル大学校奎章閣に保存されている。文字通り天下の弧本である。

承政院にはこれを統べる都承旨を始めとして、左承旨・右承旨・左副承旨・右副承旨・同副承旨の正三品堂上官六人の承旨がおり、各々吏曹・戸曹・礼曹・兵曹・刑曹・戸曹の六曹を担当した。六曹とは、いわば現在の大蔵省・外務省・文部省等にあたる大きな六つの役所である。更に六曹のみならず、国家の重要な機能を担う議政府・司憲府・司諫院・弘文館其他の凡ゆる公事も、承政院を経て行われた。承旨の下に正七品の注書がおり、これが記録を司り、史官とも称せられた。注書が何らかの事故で出勤出来ない時には、仮注書がこれに当たった。又大臣等が単独で国王に面接する場合等にも、私に個人の中傷等が行われない様に、必ず承旨や注書が立合い記録した。この様にして承旨や注書は、常時の政治・経済・社会・外交・軍事等の凡ゆる国家の機密に通じ、それは又『承政院日記』に反映しているのである。貴官顯職に升った者は、大抵承政院を経ている。

現存する『承政院日記』は、すべて往時のままではない。英祖20年（1744）と高宗25年（1888）の二度にわたり火災にあっているが、

いずれも多大な努力を費して改修している。後者の場合は記録が残っていたが、前者の場合には資料が充分でないため、各役所の古記録や個人の日記迄をも詳査しており、記事毎にその出处と執筆者・校正者名を記し、正確を期している。

従来の李朝研究は、主に『李朝実録』に依っていた。これは初代太祖から哲宗に至る25代472年にわたる、各王別の編年史である。或る王が死ねば、次代の王が現存する前代の諸記録を基にして作製する。その資料となるものに、この『承政院日記』、そして『備辺史謄録』、六曹を始めとする諸役所の記録がある。従って『承政院日記』は、『李朝実録』以前の根本資料である。現在ソウル大学校の奎章閣には、種々の記録類が保存されている。原資料に近づく程草書となり、本書も程度の差はあれ、かなりくずれた草書もあって、一般の学者には到底判読し難いものである。その故本書は、影印という容易で且つ誤植の生じない方法を採用できなかった。朝国国史編纂委員会は1960年から17年をかけ、全国各地から学殖あり、草書の解読に耐え得る漢学者70名を招いて、毛筆で楷書に書き改めさせ、影印本141冊とした。その字数は、ほぼ2億3,885万字に達する。これらの学者は、いずれも旧時代の漢学教育を受けた人々で、現在その多くは物故し、再びはこの様な作業も困難であるという。

本書には中国・日本・其他外国の記事も多く、朝鮮の専断以外の広範な研究者の使用にも資する。全国でも完帙は十指に満たぬほどのこの貴重な書籍の購入に際して賜った、文部省当局及び学内諸関係者各位の格別の御配慮に、厚く御礼申し上げる次第である。

本学教官の寄贈著書紹介

(昭和57年4月～9月)

微生物科学 1. 2. 3.

柳田友道著・学会出版セーター発行

・第1巻：昭和55年3月, 540頁 A5

・第2巻：昭和56年3月, 578頁 A5

・第3巻：昭和57年6月, 520頁 A5

火災・爆発の防止技術

若林嘉一郎著・日本ソーダ工業所発行

・昭和54年10月(第2版), 254頁 B5

——図書館関係会議—— (昭和57年4月～9月)

商議会

4月13日 若林館長就任挨拶。「納本制度」に基づく調査結果、館報編集委員会、図書館業務電算化進捗状況について報告。

5月18日 昭和57年度大型コレクション収書計画、昭和57年度製本費、附属図書館運営費、昭和58年度概算要求について審議。

6月29日 雑誌製本について審議。

9月7日 昭和57年度学生用図書購入費、参考図書購入費、基本参考図書購入費、重複雑誌製本調整案、外国雑誌購入費について審議。

国立大学図書館協議会

第29回総会・6月17日～18日

・当番地区：北信越地区協議会

・会場館：信州大学附属図書館

第1日目：総会、研究集会

第2日目：第1. 2. 3分科会、全体会議

北信越地区国立大学図書館研修会

第32回 ・8月26日～27日

・当番館：富山大学附属図書館

・テーマ：図書館間互利用について

第1日目：承合事項について質疑

第2日目：テーマについて実状報告及び討議

・講演「未だ見ぬ人にも告げん

—計算機について—」

・講師：富山大学附属図書館長

若林嘉一郎

——図書館関係人事——

採用

57. 4. 1 脇坂勝人(整理係)

金森寿子(閲覧係)

4. 13 藤木彌三郎(閲覧係)

5. 1 本田善彦(閲覧係)

6. 7 石黒世志子(整理係)

転任

57. 4. 1 横山正弘(総務係長)

富山高専出納係長より

滋野康雄(閲覧係長)

富山商船図書係長より

山田正芳(工学部分館係)

富山商船図書係長へ

配置換(学内)

57. 4. 1 石田精一(総務係)人文・理学部より

野村幸弘(受入係)経理部経理課より

安守数雄(総務係長)附属中第一係長へ

田子直幾(整理係)工学部学務係へ

岩永晴雄(受入係)教養部会計係へ

(館内)

57. 4. 1 塩谷孝雄(整理係長)参考係長より

斉藤 隆(参考係長)整理係長より

角井葉子(工学部分館係)閲覧係より

池田 勇(閲覧係)整理係より

併任

57. 4. 1 水口妙子(総務係)経済学部より

退職(辞職)

57. 4. 1 本田善彦(閲覧係長)

藤田洋子(閲覧係)

4. 30 加賀見早苗(整理係)

しよこう

10年前の図書館は静かでそれゆえに閲覧室で居眠りをする学生もいるくらいでした。あの大学紛争当時でも大学にあって唯一静粛な場所であったと思います。ところが最近では、駐車禁止の図書館玄関ロータリーに自動車、オートバイを乗り入れ騒音をまき散らす者、飲食物を館内に持ち込む者が非常に多く目につきます。職員に注意されても怪訝な表情をする者もあり、注意する職員もとまどいを感じる今日この頃です。利用者の一人一人が気をつけてもらいたいものです。